

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 県立病院における外国人の医療受診環境の整備について 岩手県に在住、来訪する外国人は年々増加しており、文化や習慣に関する相互理解とともに、外国人の受入体制を整備する必要性が高まってきています。 外国人が医療機関を受診する際、医療機関が外国人患者と十分に意思疎通を図ることができないケースが増加していることから、外国人が安心して医療を受けられる環境整備が必要であると考えます。</p> <p>[要 望] 広域基幹病院である県立病院において、外国人の受診をサポートするため、ICTの活用なども含めた医療通訳サービス導入による医療受診環境の整備を要望します。</p>	<p>県立病院では、外国人が受診しやすい環境の整備を図るため、各病院における外国人患者の受診動向等に応じて、外国語対応マニュアル、外国語の外来問診票及び会計説明書の作成並びに通訳翻訳アプリの導入に取り組んでいるほか、医師や看護師など外国語対応が可能な職員が個別に対応しているところです。 また、県立中部病院、県立胆沢病院、県立磐井病院、県立江刺病院及び県立遠野病院においては、奥州市国際交流協会と医療通訳派遣システムの覚書を締結し、診療や会計手続等における医療通訳ボランティアの派遣を受けています。 県立病院では、引き続き関係機関と連携しながら、通訳翻訳アプリの活用や外国人患者対応研修会の開催などを通じて、外国人患者が受診しやすい環境の整備に取り組んでいきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B : 1</p>
<p>2 北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について (1) 大曲排水機場のポンプ機能の増強 北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について、当市は、北上川上流改修期成同盟会を通じて、これまでも国に対して粘り強く要望を行っておりますが、災害緊急時や浸水被害対策のため次の事項について、県からの国への働きかけを要望します。</p> <p>(1) 大曲排水機場のポンプ機能の増強 北上川右岸にある大曲排水機場は、平成19年9月の洪水時にポンプをフル稼働したにもかかわらず、市道とJR東北本線との立体交差部で冠水の恐れが生じたことから、幹線道路の通行止めの措置をとらざるを得なくなり、大きな混乱を来しました。近年の気象状況に鑑みれば、今後、平成19年以上の洪水が危惧されることから当該地区の内水対策は焦眉の問題となっています。</p> <p>[要 望] 都市機能の保全と災害緊急時の安全な交通路を確保するため、ポンプ機能の増強について県からも国へ働きかけるよう要望します。</p>	<p>大曲排水機場は、国において平成14年度までに完成しております。 しかし、排水機場の設置後も、背後地の市街地化が進んでいることや、昨今、局地的に短時間で降る大雨が多発し、現在のポンプ規模での対応が厳しくなることが懸念されることから、国では、市による土地利用規制や開発規制等と相互連携を図りながら、必要に応じて対応を検討していくと聞いています。 県としても、水防情報の速やかな共有に努めるなど、減災への取り組みを強化するとともに、ポンプ機能の増強について国土交通省への要望を行っていきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について (2) 相去町下谷木地区の堤防等整備</p> <p>北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について、当市は、北上川上流改修期成同盟会を通じて、これまでも国に対して粘り強く要望を行っておりますが、災害緊急時や浸水被害対策のため次の事項について、県からの国への働きかけを要望します。</p> <p>(2) 相去町下谷木地区の堤防等整備</p> <p>北上川右岸の相去町下谷木地区は、平成19年9月の洪水で北上川の流水が大関沢川との合流地点から逆流したことにより、同地区の1団地が孤立し、3世帯が自治公民館に避難する事態が発生しており、この地区では、浸水被害防止対策が緊急の課題となっています。</p> <p>[要 望]</p> <p>浸水被害対策として、北上川と大関沢川の合流点付近までの堤防の延伸整備と排水機場等の整備について県からも国へ働きかけるよう要望します。</p>	<p>無堤防区間が多い北上川中流部（概ね紫波町～奥州市の区間）においては、平成14年7月洪水及び平成19年9月洪水に伴い、5年間に2度も甚大な浸水被害を受けています。</p> <p>国では、平成19年9月洪水のとき、住宅地の手前まで浸水範囲が迫ってきたことは承知していますが、北上川中流部無堤区間では、大きな浸水被害を受けた地区から、順次、緊急的な治水対策を実施しているところであり、下谷木地区については他地区の進捗を勘案しながら対応すると聞いています。</p> <p>北上川の治水対策は、県としても重要な課題であり、国に対し整備促進の要望を行っていきます。（B）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B：1</p>
<p>2 北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について (3) 小鳥崎地区及び黒岩地区の堤防整備</p> <p>北上川の内水排水ポンプの増強及び堤防の整備について、当市は、北上川上流改修期成同盟会を通じて、これまでも国に対して粘り強く要望を行っておりますが、災害緊急時や浸水被害対策のため次の事項について、県からの国への働きかけを要望します。</p> <p>(3) 小鳥崎地区及び黒岩地区の堤防整備</p> <p>北上川右岸の小鳥崎地区は、平成19年9月の洪水で北上川の流水が地区内に流入し、住家2戸、非住家3戸が床下浸水する事態が発生しています。</p> <p>また、現在計画である黒岩地区の堤防整備がなされた際には、洪水時、堤防整備が完了した二子及び黒岩両地区の下流側で堤防が未整備である小鳥崎地区及び里分地区への浸水が大変懸念されており、この地区の浸水被害防止対策が緊急の課題となっています。</p> <p>[要 望]</p> <p>浸水被害対策として、小鳥崎地区から珊瑚橋北側までの堤防の整備延伸及び黒岩地区の堤防整備事業推進について、県からも国へ働きかけるよう要望します。</p>	<p>無堤防区間が多い北上川中流部（概ね紫波町～奥州市の区間）においては、平成14年7月洪水及び平成19年9月洪水に伴い、5年間に2度も甚大な浸水被害を受けたことから、国では、まずは住家への浸水被害の軽減を図ることを優先して進めると聞いています。</p> <p>黒岩地区については、県の道路改良工事の進捗とあわせて、兼用区間のみを施工することとし、黒岩地区の残りの区間及び小鳥崎地区については、他地区の進捗を勘案しながら対応すると聞いています。</p> <p>北上川の治水対策は、県としても重要な課題であり、国に対し整備促進の要望を行っていきます。（B）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 北上市内の一般国道4号の4車線拡幅と整備について</p> <p>(1) 北上工業団地入口以北の4車線化</p> <p>(1) 北上工業団地入口以北の4車線化</p> <p>北上工業団地入口から花巻市境までの区間については、北へ向かう幹線物流ルートであることや、広域医療の基幹病院として救急医療の中核となっている県立中部病院への花巻市方面からの救急車両のメインルートとなっていますが、いまだに2車線区間であることから渋滞が著しい区間となっています。</p> <p>また、東芝メモリ新工場立地により、1棟あたり最大1,000人の従業員、300～400社とも言われる関連企業の出入りが行われることになり、さらに激しい渋滞が発生すると見込まれます。</p> <p>なお、「2019年度東北地方整備局事業概要」において、一般国道4号北上花巻線が計画段階評価を進めるための調査個所に決定し、交通環境改善に向けて前進しております。</p> <p>[要 望]</p> <p>4車線化の事業促進のため、北上市・花巻市・金ケ崎・奥州市の3市1町と民間企業・団体による国道4号岩手県南地域整備促進期成同盟会を設立し、国への要望活動を行っておりますので、早期事業化に向け、県からも国へ働きかけるよう要望します。</p> <p>また、今後見込まれる都市計画決定などの県における許認可手続きについては、迅速な対応をお願いします。</p>	<p>県では、内陸部における物流の円滑化や地域間の交流・連携を促進し、快適・安全な生活の確保を図る道路として、一般国道4号の整備の重要性を認識しており、6月11日に行った令和2年度政府予算提言・要望において、一般国道4号の整備促進について国に要望しています。</p> <p>引き続き一般国道4号における2車線区間の4車線化の早期事業化について国へ強く働きかけていきます。(B)</p> <p>また、都市計画決定について国から協議申出があった場合には、速やかに都市計画決定の手続に入れるよう関係機関と連携しながら取り組んでいきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B：2</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 北上市内の一般国道4号の4車線拡幅と整備について</p> <p>(2) 鬼柳地区の立体横断施設等整備</p> <p>(2) 鬼柳地区の立体横断施設等整備</p> <p>4車線化された区間のうち、鬼柳地区の一般県道北上和賀線との交差点は、近隣の小学校の通学路となっており、交通量の多い国道の横断歩道を小中学生約90人が利用している状況となっています。</p> <p>また、地域では、立体横断施設等整備の実現に向けて、「国道4号都鳥交差点に立体横断施設の設置を要望する会」を昨年度設立しました。</p> <p>[要 望]</p> <p>交通量が多い状況で、重大事故の発生が懸念されることから、交差点または交差点付近の安全が確保できる場所への立体横断施設（地下道または歩道橋設置等）の早急な設置に向けて国への働きかけを要望します。</p>	<p>御要望の鬼柳地区への立体横断施設等の設置については、現地状況等から現状では整備が難しいと国から聞いています。</p> <p>なお、県では交差点西側の一般県道北上和賀線の300m区間について、平成25年度から歩道整備を行っており、引き続き事業を進めます。（C）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C：1</p>
<p>4 一般国道107号の整備促進について</p> <p>(1) バイパス事業の延伸</p> <p>一般国道107号は、太平洋と日本海を結ぶ、物流、観光を支える重要な役割を担う道路であり、平成9年4月には一般国道4号から和賀町長沼までのバイパス区間が供用開始され、藤根地区の家屋連担区間の交通事故や騒音、危険箇所が解消が図られていますが、和賀町堅川目、横川目地区の家屋連担区間においては歩行者等が危険な状態です。</p> <p>また、県道口内伊手線と接続する口内町金成地区の交差点は、カーブが連続する区間に位置しており、見通しが悪い危険箇所となっていること、梁川口内トンネル開通により、今後、交通量の増加が予想されることなどから、交通事故の発生が危惧されます。</p> <p>[要 望]</p> <p>(1) バイパス事業の延伸</p> <p>和賀町堅川目、横川目地区のバイパス事業の延伸により、交通安全対策を講じるよう要望します。</p>	<p>一般国道107号の御要望区間におけるバイパス事業の延伸については、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 一般国道107号の整備促進について (2) 右折レーンの設置 一般国道107号は、太平洋と日本海を結ぶ、物流、観光を支える重要な役割を担う道路であり、平成9年4月には一般国道4号から和賀町長沼までのバイパス区間が供用開始され、藤根地区の家屋連担区間の交通事故や騒音、危険箇所の解消が図られていますが、和賀町堅川目、横川目地区の家屋連担区間においては歩行者等が危険な状態です。</p> <p>また、県道口内伊手線と接続する口内町金成地区の交差点は、カーブが連続する区間に位置しており、見通しが悪い危険箇所となっていること、梁川口内トンネル開通により、今後、交通量の増加が予想されることなどから、交通事故の発生が危惧されます。</p> <p>[要 望] (2) 右折レーンの設置 107号口内金成地区、県道口内伊手線交差点部分に右折レーンの設置を要望します。</p>	<p>御要望の箇所については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 秋田自動車道の4車線化について</p> <p>秋田自動車道は、東北自動車道と直結し、日本海と太平洋側を結ぶ産業・経済にとって重要な社会基盤となっております。</p> <p>また、東日本大震災では、秋田側を介した緊急支援ルートとして大きな役割を果たしたところです。</p> <p>さらに、平成27年に西和賀町内で発生した土砂崩落により、一般国道107号が通行止めになった際には、その唯一の代替路線として利用されました。</p> <p>しかし、北上JCT～大曲IC間は片側1車線区間であり、冬季の積雪や事故による通行止めの発生など、産業振興や観光面で大きな課題が顕在化しております。</p> <p>なお、秋田自動車道の北上JCT～大曲IC間の4車線化については、秋田自動車道四車線化促進期成同盟会を通じて要望を行っております。</p> <p>[要 望]</p> <p>平成31年3月に国土交通省の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の一環として湯田IC～横手IC間の20.3kmのうち約7.7kmが財政投融资を活用して実施する4車線化等候補箇所に選定、その後事業化されたところですが、引続き北上JCTまでの4車線化整備を要望していきますので、県からも国やNEXCO東日本へ働きかけるよう要望します。</p>	<p>県としても、高規格幹線道路における防災・減災機能の強化を図るためには、暫定2車線区間の4車線化等の推進が必要と考えており、令和元年6月11日に行った、令和2年度政府予算提言・要望において、秋田自動車道（湯田IC～横手IC）等の整備を推進するよう要望したところです。</p> <p>県としては、引き続き整備が推進されるよう、国に働き掛けていきます。（A）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A：1</p>
<p>6 一般国道456号の整備促進とルート変更について</p> <p>一般国道456号は、盛岡市を起点に北上川の東側を宮城県登米市まで縦断しており、沿線市町村の産業、観光等の重要な機能を担い、一般国道4号を補完する幹線道路ですが、幅員が狭く歩道も一部を除き設置されていない状況となっております。</p> <p>[要 望]</p> <p>口内町新町、荒町地区の拡幅改良及び歩道設置、もしくは、同町の久田から松坂を経由して青木田まで通じるバイパスの建設を要望します。</p>	<p>御要望の口内町新町（しんまち）、荒町（あらまち）地区の拡幅改良及び歩道設置については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> <p>また、久田（きゅうでん）から青木田（あおきだ）地区のバイパス化については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。（C）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C：2</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 主要地方道の整備促進について (1) 花巻北上線 (1) 花巻北上線</p> <p>主要地方道花巻北上線は、北上川の川東地区を南北に縦断する広域的な幹線道路ですが、黒岩地区から立花地区の区間には歩道のない箇所があり、北上川が増水した際には当該道路と隣接する自転車道が水没して利用できないこともあるなど、自転車、歩行者の通行に危険な状況です。</p> <p>[要 望] 歩道のない黒岩地区の車道拡幅及び歩道の設置を要望します。</p>	<p>黒岩地区から立花地区の車道の拡幅及び歩道設置については、要望箇所の地形が厳しい状況から、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の整備や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>
<p>7 主要地方道の整備促進について (2) 花巻平泉線 (2) 花巻平泉線</p> <p>主要地方道花巻平泉線は、当市と花巻市、金ヶ崎町等を結ぶ、温泉観光等の重要な幹線道路であります。一部に拡幅工事の未着手区間があると同時に、夏油川に架かる橋が狭く危険な状況です。</p> <p>[要 望] 和賀町山口地内の狭窄箇所の早期拡幅改良と、和賀町岩崎地内で冬期間の通行に危険が大きい新田橋の架け替えを含めた道路改良を要望します。</p>	<p>主要地方道花巻平泉線の山口地区の拡幅改良については、用地交渉の難航区間があり整備を中断した経緯がありますが、早期整備に向けて引き続き、関係者との計画協議を進めていきます。(A)</p> <p>新田橋(しんでんばし)の架け替えについては、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断検討していきます。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1 A : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 主要地方道の整備促進について (3) 北上東和線 (3) 北上東和線</p> <p>主要地方道北上東和線は、花巻市東和地区の中心部と北上市を結ぶ道路であり、平成大橋を經由して工業団地、国道4号、県立中部病院等に至る道路ですが、当該路線のうち、花巻市境の臥牛地内から更木地内までの区間は、幅員が狭く、高低差の著しい状況が連続する区間であり、特に冬期間の車両通行が危険な状況です。</p> <p>また、本路線と交換予定としている川原町南田線において、当市では県立黒沢尻工業高校までの歩道整備を進めておりますが、主要地方道北上東和線については、地域から二子小学校前への早期の歩道整備と昭和橋の補修について要望があります。</p> <p>[要 望] 道路利用者の安全確保のため、拡幅整備及び二子小学校前の歩道整備並びに昭和橋の長寿命化対策を要望します。</p>	<p>(花巻土木分) 主要地方道北上東和線の臥牛（ふしうし）から更木（さらき）までの拡幅整備については、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> <p>(北上土木分) 歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性等を考慮しながら整備を進めている状況です。 御要望の二子小学校前の区間については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> <p>昭和橋については、現在、貴市との移管協議に基づき補修工事を実施しています。（B）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B : 1、 C : 2</p>
<p>8 一般県道の整備促進について (1) 夏油温泉江釣子線</p> <p>一般県道は、国道等の基幹道路と市内各地域を広域的に結び、主要施設へのアクセス、国道の補完といった重要な役割を担い、通勤通学等日常の市民生活に欠かせない重要路線ですが、近年、交通量が増加し、施設の改良整備が緊急の課題となっています。</p> <p>つきましては、交通安全の確保と道路機能の向上を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(1) 夏油温泉江釣子線</p> <p>夏油温泉江釣子線は、一般国道107号と市の主要な観光地である夏油高原地域を結ぶ重要な路線ですが、江釣子十文字交差点から南側の住宅連担区間及び和賀川右岸の広表橋から堤防までは幅員が狭く、歩道もない状況となっています。</p> <p>[要 望] この区間の歩行者及び自転車の安全確保のため、交差点改良と交通安全施設の整備を要望します。</p>	<p>歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性等を考慮しながら整備を進めている状況です。</p> <p>『江釣子十文字交差点の交差点改良』及び『同交差点から南側の住宅連担区間の歩道等の交通安全施設の整備』については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> <p>また、『和賀川右岸の広表橋から堤防までの区間の歩道等の交通安全施設の整備』についても、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 2</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>8 一般県道の整備促進について</p> <p>(2) 相去飯豊線</p> <p>一般県道は、国道等の基幹道路と市内各地域を広域的に結び、主要施設へのアクセス、国道の補完といった重要な役割を担い、通勤通学等日常の市民生活に欠かせない重要路線ですが、近年、交通量が増加し、施設の改良整備が緊急の課題となっています。つきましては、交通安全の確保と道路機能の向上を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(2) 相去飯豊線</p> <p>相去飯豊線は、当市の中心市街地を縦断しており、通勤通学や買物等市民の日常生活には欠かすことのできない重要路線であります。中心商店街通りにおいて、一部区間には歩道が設置されておらず、歩行者の安全確保に不安をきたしています。</p> <p>[要 望]</p> <p>誰もが歩いて暮らせるまちづくりのため、中心市街地の歩行空間の安全確保が求められており、県道北上停車場線から市道大天満大曲線交差点までの両側区間に歩道の整備を要望します。</p>	<p>歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性等を考慮しながら整備を進めている状況です。御要望の箇所については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>8 一般県道の整備促進について</p> <p>(3) 後藤野野中線</p> <p>一般県道は、国道等の基幹道路と市内各地域を広域的に結び、主要施設へのアクセス、国道の補完といった重要な役割を担い、通勤通学等日常の市民生活に欠かせない重要路線ですが、近年、交通量が増加し、施設の改良整備が緊急の課題となっています。つきましては、交通安全の確保と道路機能の向上を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(3) 後藤野野中線</p> <p>後藤野野中線のうち、一般国道107号から県道花巻和賀線交差点までの区間は、幅員が狭く歩道もない状況となっていますが、近年、後藤野工業団地への通勤車両や大型車両の通行が増加していることに加え、工業団地への企業立地や岩手中部広域行政組合によるごみ焼却施設の平成27年10月からの稼働により、大型車両等の通行が増加しています。</p> <p>[要 望]</p> <p>事業着手されている国道107号交差点から起点側300mに引き続いて、県道花巻和賀線との交差点までの歩道設置と道路の拡幅整備を要望します。</p>	<p>歩道設置等については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性等を考慮しながら整備を進めている状況です。</p> <p>御要望の区間への歩道設置及び拡幅整備については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。</p> <p>なお、一般国道107号交差点から起点側の約300m区間については、平成29年度に整備を完了しました。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>9 市道の県道認定について</p> <p>(1) 市道飯豊赤坂線 当市の重要幹線市道及び隣接市町との広域幹線道路として重要な機能を有する次の道路について、県道認定を要望します。</p> <p>(1) 市道飯豊赤坂線 (L=12,310m) 市道飯豊赤坂線は、一般国道4号及び県道相去飯豊線のバイパス的な役割を担い、これら路線の交通緩和を図るうえで極めて重要な路線となっています。 全線開通した後は、東北縦貫自動車道北上江釣子インターチェンジ及び北上金ヶ崎インターチェンジを最短で直結し、また、北上流通基地をはじめ市内の工業団地等への物資の搬入に大きな役割を果たすとともに、現在、当市が事業を実施中の飯豊北線を含めて花巻市まで至ることになり、沿線にある県立中部病院や北上総合運動公園へのアクセス道路にもなる道路となっています。</p> <p>[要 望] 国道4号を補完し、花巻市と金ヶ崎町を結ぶ広域的な道路として、県道として認定を要望します。</p>	<p>県道昇格については、市町村間を結ぶ道路など道路法に規定する認定条件を具備する必要があるとあり、これらの要件を満たした路線について、地域の道路網における市町村道との機能分担や、整備・管理する必要性等を総合的に判断の上行うこととしており、現在のところ、御要望の区間の県道昇格は難しい状況です。</p> <p>(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>
<p>9 市道の県道認定について</p> <p>(2) (仮称) 上浮田村崎野線 当市の重要幹線市道及び隣接市町との広域幹線道路として重要な機能を有する次の道路について、県道認定を要望します。</p> <p>(2) (仮称) 上浮田村崎野線 (L=9,106m) (仮称) 上浮田村崎野線は、当市と花巻市東和町を結ぶ幹線道路であり、一般国道4号から一般国道456号に至る通勤通学、産業・観光道路としての重要な役割を担っています。</p> <p>[要 望] 花巻市東和町方面から県立中部病院へのアクセス道路として極めて重要な路線であることから、早急に県道認定を行うよう要望します。</p>	<p>県道昇格については、市町村間を結ぶ道路など道路法に規定する認定条件を具備する必要があるとあり、これらの要件を満たした路線について、地域の道路網における市町村道との機能分担や、整備・管理する必要性等を総合的に判断の上行うこととしており、現在のところ、御要望の区間の県道昇格は難しい状況です。</p> <p>(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>10 (仮称)新国見橋の整備について 主要地方道一関北上線は北上川左岸に、一般県道相去飯豊線は右岸に位置し、それぞれ当市の主要な道路であり、両路線を利用して、物流貨物車はもとより、奥州市江刺から北上南部工業団地などへ、または当市から江刺中核工業団地へ通勤する自家用車が多数通行しています。 一方、主要地方道一関北上線と一般県道相去飯豊線は、沿岸地域から国道107号を通過して北上金ヶ崎ICまでをつなぐバイパスルートとなっていますが、両路線を結ぶ橋は、道幅が狭く、歩道もない当市が管理する国見橋のみです。 沿岸の湾岸施設を利用した物流を促進するとともに、車両の安全な運行を図るためには、両路線を結ぶ新たなルートの確保が必要となります。</p> <p>[要 望] 主要地方道一関北上線及び一般県道相去飯豊線を結ぶ(仮称)新国見橋の整備を要望します。</p>	<p>新たな橋の整備については、県として早期の事業化は困難ですが、国見橋の管理者でもある貴市と、北上川を渡る道路ネットワークのあり方について検討していきます。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C : 1</p>
<p>11 一般県道北上花巻温泉自転車道線の舗装整備について 平成29年に、観光振興、環境への負担低減、住民の健康増進や交通渋滞の緩和などを旨とし、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進するため、自転車活用推進法が施行されました。 当市では、「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」に入会し、情報交換や共同の取組みを進めるとともに、シェアサイクルの社会実験やサイクリングロードの設置などに取り組んでいます。 また、今後、自転車を活用したまちづくりを推進するにあたっては、既存の自転車道を活用することが有効であると考えておりますが、一般県道北上花巻温泉自転車道線については、舗装の亀裂や剥離が目立ち、自転車の走行に支障をきたす状況となっています。</p> <p>[要 望] 一般県道北上花巻温泉自転車道線をサイクリングコースとしての活用に支障をきたさないように、全面的な舗装改修をお願いします。</p>	<p>北上花巻温泉自転車道線の舗装改修については、早期の事業化は難しい状況ですが、道路パトロール等により走行支障箇所の把握に努め、緊急度の高い箇所から応急処置にて対応しつつ、要望の実現に向け努力していきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>12 北上コンピュータ・アカデミーの今後の運営について</p> <p>全国の情報処理技能者養成施設及び地域職業訓練センターの廃止に伴い譲渡された北上コンピュータ・アカデミー（以下、「コンピュータ・アカデミー」という。）は、激変緩和措置として、平成23年度以降3か年、施設の修繕料と機器リース料が全額国費による対応がなされ、その後、県、市及び職業訓練法人北上情報処理学園が連携して、国に対し支援継続の要望を行い、令和元年度までは、一定の条件のもとリース料に対し国による全額補助が継続されております。</p> <p>コンピュータ・アカデミーの直近3年間（平成29～令和元年度）の入学生の地区別状況をみると、約9割が県内高校出身者であり、その内訳は北上地区が17%、花巻・盛岡・県北地区が39%、胆江・一関地区が29%、その他沿岸、気仙地区からと、県内各地から生徒を受け入れています。また、直近3年間（平成28～30年度）の就職状況は県内が79%、県外が21%であり、卒業生の多くが県内で活躍しています。</p> <p>コンピュータ・アカデミーでは、平成30年度に機器を更新し教育環境を整えたほか、離職者等再就職訓練を新たに受託し、訓練の充実、学生の確保に努めています。</p> <p>なお、昨年度、県、市及びコンピュータ・アカデミーの3者による情報交換会を開催し、コンピュータ・アカデミーの現状・課題を共有しているところです。</p> <p>[要 望]</p> <p>コンピュータ・アカデミーが北上市内のみならず、広く県内の人材育成に寄与しており、引き続き県内における高度情報技術者の育成拠点としての役割を果たしていくため、高等教育機関が皆無である当地域の実情を考慮の上、今後の運営について県の関与を深めていただくようお願いいたします。</p>	<p>北上コンピュータ・アカデミーは、開校以来多くの人材を輩出し、地域の情報化と経済の発展に寄与しており、継続して運営できるよう財源の確保を図ることが重要と考えています。</p> <p>そのため、県では、これまでも北上市と連携し国への要望活動を行っており、国の職業能力開発校設備整備費等補助金により、コンピューターリース料についての支援措置が継続されてきたところです。</p> <p>今年度は、7月に、北上市と連携し、厚生労働省に対し「令和2年度以降の職業能力開発校設備整備費等補助金による支援（国による全額支援）の継続」について要望したところです。</p> <p>今後とも、北上コンピュータ・アカデミーの運営についての調査研究に協力していくとともに、北上市との緊密な連携のもと、北上コンピュータ・アカデミーでの訓練がしっかり行えるよう、引き続き、「国の全額負担による財政支援の継続」について取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>13 北上市産業支援センターとの連携強化について</p> <p>(1) 岩手県よろず支援拠点サテライトの設置</p> <p>当市では、産業間連携や起業等による新事業を創出し、地域の持続的な発展と魅力ある地域産業の振興を図るため、北上市基盤技術支援センターの機能を拡充させた北上市産業支援センターを平成29年度に開設しておりますが、産業振興を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(1) 岩手県よろず支援拠点サテライトの設置</p> <p>製造業が集積されている県南地域において、北上市産業支援センターをより効果的に運営するため、岩手県よろず支援拠点等の支援機関との強固な連携体制を構築する必要があると考えます。</p> <p>[要 望]</p> <p>現在実施されている出前による相談体制を生かしながら、県南地域をターゲットとした支援拠点サテライトを北上市産業支援センター内に設置することによる相談支援体制の強化を要望します。</p>	<p>岩手県よろず支援拠点は、平成26年6月に「いわて産業振興センター」内に設置され、商工団体や金融機関と連携しながら、開設以来25,000件以上の相談に対応しており、盛岡地区以外の事業者も気軽に相談できるよう、県内各地で合同相談会を開催しています。</p> <p>特に北上地区においては、北上市産業支援センターや北上信用金庫と連携し、平成29年度から、ほぼ毎週のように開催し、事実上のサテライト展開となっているところです。</p> <p>また、北上市産業支援センターには、事業者からよろず支援拠点の利用照会があった場合は、合同相談会を御案内いただくなど、同拠点と連携した対応を行っています。</p> <p>県としては、よろず支援拠点の相談業務を通じて、事業者の売上拡大や経営改善を支援していきたいと考えており、公益財団法人いわて産業振興センターとともに、同拠点と商工団体、金融機関及び関係支援機関との連携を深めていきます。</p> <p>このため、県では、本年6月に実施された「令和2年度政府予算等に係る提言・要望」において、よろず支援拠点にて相談支援などに対応する専門スタッフの拡充等について要望したところです。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B : 1</p>
<p>13 北上市産業支援センターとの連携強化について</p> <p>(2) 北上市産業支援センター内の自動車分解展示の更新</p> <p>当市では、産業間連携や起業等による新事業を創出し、地域の持続的な発展と魅力ある地域産業の振興を図るため、北上市基盤技術支援センターの機能を拡充させた北上市産業支援センターを平成29年度に開設しておりますが、産業振興を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(2) 北上市産業支援センター内の自動車分解展示の更新</p> <p>現在実施されているプリウスの分解展示は、県南地域の企業はもとより他県からも多数来場があるほか、学生に対する講座が開設されるなど、ものづくりへの意識喚起に繋がってきました。しかし、経年により、最新車種ではない部品展示のため来訪者は減少しています。</p> <p>[要 望]</p> <p>地場産業の自動車産業への進出及び講座を受講した学生が高い技能や技術を習得し、地場産業を支える人材となることで企業誘致の増加を図るため、より新しい車両であり、隣接する金ケ崎町で製造されている最新車種の分解展示の実施を要望します。</p>	<p>自動車部品の分解展示場は、平成20年8月に開設して以来、小学生の見学から大学等の講座、ものづくり企業の従業員教育等人材育成に活用されてきたほか、自動車産業への参入や取引拡大を目指す企業に対し、自動車部品・構造に関する具体的な情報を提供するなど、本県ものづくり産業の発展に貢献してきました。</p> <p>現在、本県は、トヨタ自動車東日本(株)岩手工場による小型車の生産拡大に伴い、部品メーカー等の集積が加速しており、今後も新型車種の生産等さらなる発展が見込まれる状況にあります。</p> <p>このような中、自動車部品の分解展示場の役割は今後も重要と考えており、トヨタの東北拠点化の動向や隣県の類似施設との機能分担等を踏まえながら、引き続き充実努めていきます。</p> <p>(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>13 北上市産業支援センターとの連携強化について (3) いわてデジタルエンジニア育成センターの継続 当市では、産業間連携や起業等による新事業を創出し、地域の持続的な発展と魅力ある地域産業の振興を図るため、北上市基盤技術支援センターの機能を拡充させた北上市産業支援センターを平成29年度に開設しておりますが、産業振興を図るため、次の事項について要望します。</p> <p>(3) いわてデジタルエンジニア育成センターの継続 いわてデジタルエンジニア育成センターは、3次元設計開発の人材育成や企業支援の拠点として大きな役割を果たしており、自動車産業をはじめ地場産業の振興につながっています。 また、当市では、昨年度3次元造形技術の人材育成や技術支援を強化するため、北上市産業支援センター内にフルカラー3Dプリンタを導入しましたが、この機器の活用においても、いわてデジタルエンジニア育成センターとの連携による相乗効果が期待されているところです。</p> <p>[要 望] いわてデジタルエンジニア育成センターは、県の委託事業と当市補助金により運営されており、今年度、国、県、市、教育機関及び企業等で構成される運営協議会が設立され、今後の運営について検討することとなっておりますが、県においても3次元設計開発に係る人材育成や企業支援が安定的に行われるよう、体制を強化するとともに、産業集積地である当市において引き続き運営されるよう要望します。</p>	<p>いわてデジタルエンジニア育成センターは、平成21年7月に県と北上市が連携し「北上オフィスプラザ」内に設置され、3次元設計技術に関する「人材育成」と「企業支援」の2つの柱のもと、これまで事業を実施してきたところです。 人材育成事業については、求職者、在職者、学生、教員向けの講習を実施し、これまで2千人余りの方々が受講しています。また、これら受講者のうち、221人が求職者で、そのうち99人が自動車関連企業等に就職するなど、当センターの人材育成に係る取組は県内全域に広まり、企業や専門高校にとどまらず県内高校からも三次元設計開発における人材育成機関として高い評価を受けています。 また、当センターが有する専門的な3次元ソフト及び当該ソフトに精通している講師が、多様な企業支援を行うことで、企業の産業競争力の強化にも貢献しています。 三次元設計開発技術は、設計業務の効率化にとどまらず、受注の拡大や生産プロセスの効率化にも繋がる技術であり、ものづくり産業の振興を図る上で、ますます重要になってきます。また、AIやロボットなどの第4次産業革命技術の導入を進めるための基盤であることから、その支援を行う当センターの機能の強化等を図るため、今年度、当センターの支援機能の充実や、長期安定的な運営のあり方などを検討することを目的に、貴市にも参画いただき第三者等で構成するいわてデジタルエンジニア育成センター運営協議会を設置し、7月には第1回運営協議会を開催したところです。 県としては、運営協議会での検討などを通じ、引き続き貴市や関係機関と連携しながら、今後のセンター運営のあり方について検討していきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>14 北上工業団地の渋滞緩和に向けた信号機の設置について 北上工業団地は、従業員の車通勤による朝夕の慢性的な渋滞が発生しており、今後、東芝メモリ新工場の稼働とそれに伴う関連企業の出入りによりさらなる渋滞が懸念されます。 このため、当市は当工業団地周辺地区の交通解析結果を基にした道路新設・拡幅・右折レーン等の道路整備事業を令和4年度完了の目指して進めておりますが、道路整備事業と合わせた信号機設置が必要と考えます。</p> <p>[要 望] 次の交差点への信号機の設置に向けて特段の配慮を要望します。</p> <p>(1) 信号機の新設 ア 県道北上東和線と市道北上工業団地東部道路の交差点 イ 市道飯豊秋葉線と市道北上工業団地東部道路の交差点 ウ 市道川原町南田線と市道飯豊東部幹線3号線交差点</p> <p>(2) 右折信号機の増設 エ 市道飯豊秋葉線と市道成田黒沢尻線の交差点 オ 市道飯豊秋葉線と市道川原町南田線の交差点 カ 市道飯豊秋葉線と市道宿成田線の交差点</p>	<p>北上工業団地の東芝メモリ新工場等の稼働に伴い、北上工業団地内の車両、歩行者の増加が予想されますが、道路整備事業が完了しておらず、今後、交通流量の変化、交通渋滞及び交通事故の発生状況などについて継続して注視することにし、適切な時点で住民の方の意見も参考としながら信号機設置の判断を行うことにします。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C : 1</p>
<p>15 工業団地整備等に係る県の支援について 近年、県南地域において、半導体関連産業や自動車関連産業の立地や生産集約などが進んでおり、いわて県民計画では「北上川バレープロジェクト」を掲げ、当該地域を含む北上川流域において産業集積が進み新たな雇用の創出が見込まれることを生かし、働きやすく、暮らしやすい新しい時代を切り拓く先行モデルとなるゾーンの創造を目指すこととしています。一方、企業が立地するためには、受け皿となる工業団地の不足とともに、従業員の住宅不足が課題となっており、当市では、企業誘致の機会を逃すとともに雇用機会の喪失につながることから、新たな工業団地の整備や住宅建築支援策を計画しております。</p> <p>[要 望] 工業団地整備等に係る農業振興地域の変更、都市計画の変更、農地転用許可、林地開発許可、環境アセス等の諸手続きに時間を要することにより、企業誘致の絶好の機会を逃すことのないよう、県からの適切な指導及び助言をいただき、迅速な許認可手続きを進められることを要望いたします。</p>	<p>県南部において工業団地等が不足している状況については、県としても認識しているところです。 企業の立地ニーズに迅速に対応するためには、あらかじめ一定の面積の工業団地等を可能な限り条件の良い地域に確保することが重要であります。各種許認可等については、法令等に基づいた個別案件ごとの手続きとなります。 県としましては、できるだけ迅速な許認可等の手続きとなるよう、対応していきますので、早めの情報提供等、御相談願います。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部、保健福祉環境部、農政部、林務部、土木部</p>	<p>B : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>16 北上市内への特別支援学校分教室高等部の新設について 平成29年4月、花巻清風支援学校北上みなみ分教室小学部及び中学部を岩手県の特段の配慮により開設いただきました。令和元年度は小学部転入が1名、全体で6名に、中学部には2名入学し中学部全体で6名となりました。隣接する北上市立南小学校、南中学校との交流も図られ、良好な学習環境や通学の負担の軽減などから、さらに、同校への入学者数の増加が見込まれます。</p> <p>一方、昨年度、市内中学校を卒業した特別支援学級在籍者18名のうち、花巻清風支援学校高等部に6名、盛岡峰南支援学校に1名、前沢明峰支援学校に1名、西和賀高等学校に1名、水沢農業高等学校3名、杜陵高校奥州校・通信制に1名、盛岡スコーレ高等学校に2名、江南義塾高等学校に1名、星北高等学園に1名が就学しており、義務教育終了後は生徒の障がいの特性に応じた就学先を求めて市外に就学せざるを得ない状況です。また、花巻清風支援学校高等部在籍者の約5割が当市から就学しています。</p> <p>現在、北上みなみ分教室中学部には2年生1名が在籍しており、同校を卒業する生徒が市内で一貫した教育を受けられる環境の整備が望まれるとともに、市内の特別支援学級生徒の進学先として、市内に支援学校高等部の設置が必要であると考えます。</p> <p>[要 望] 花巻清風支援学校北上みなみ分教室小中学部の設置を踏まえて、その近隣である北上翔南高等学校に、北上みなみ分教室高等部の設置を要望します。</p>	<p>特別支援学校の高等部においては、将来の自立や就労を見据えた教育を重視しており、一定の集団での様々な学習を通して、一人一人に応じた社会性や働く力を育むことが必要とされています。花巻清風支援学校高等部では、平成27年度に新たな作業棟を増築し、花北地区の生徒を対象とした高等部の教育環境の充実を図ったところです。</p> <p>県教育委員会としては、平成31年3月に策定した「いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）」に基づき、今年度、特別支援学校整備計画の策定に着手したところであり、県全体の現状と課題を整理し、関係者等からも意見を聴取しながら検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>今後の高等部のあり方を含む特別支援学校の教育環境の整備については、生徒数の動向や全体的な学校配置のあり方等を総合的に勘案し、ご提言の趣旨等も踏まえながら検討していきます。</p> <p>(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>中部教育事務所</p>	<p>C：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>17 北上済生会病院新病院建設に係る支援について</p> <p>(1) 予算確保</p> <p>北上済生会病院は、施設の老朽化が進み、これに加え一部耐震性に難があることから、旧県立北上病院跡地に新病院を建設することとし、令和2年度に開院を目指して工事を進めているところです。当病院は、長年にわたり当市の中核病院として、県立中部病院とともに急性期医療を担うほか、当市にとっては回復期医療を担う唯一の病院であり、市民にとって欠くことのできないものとなっています。</p> <p>また、「地域周産期母子医療センター」がない医療圏の胆江地区の金ヶ崎町や奥州市からも周産期医療の外来や入院患者が来院しており、2つの医療圏にまたがる広域性のある重要な医療機関となっています。</p> <p>当市としては、地域医療を支えるため、この新病院建設を、全面的に支援することとしており、その存在意義や広域性を考えた場合に、県と一体となった支援が必要と考えます。</p> <p>[要 望]</p> <p>(1) 予算確保</p> <p>県の医療施設近代化施設整備事業費補助金が交付要綱の基準額どおりに交付できるよう、その財源である厚生労働省の地域医療介護総合確保基金の十分な予算確保について、国へ働きかけるよう要望します。</p>	<p>県の医療施設近代化施設整備事業費補助金は、昨年度まで国の「医療提供体制施設整備交付金」を財源として実施してきましたが、国の事業見直しに伴い、今年度から、国の医療介護提供体制改革推進交付金及び県費で造成している「地域医療介護総合確保基金」を財源として実施することになったところです。</p> <p>県では、医療施設近代化施設整備事業費補助金が基準額どおり交付できるよう、国に対して、基金の財源となる医療介護提供体制改革推進交付金の十分な確保について要望を行っています。</p> <p>(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B：1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>17 北上済生会病院新病院建設に係る支援について (2) 信号機の新設</p> <p>北上済生会病院は、施設の老朽化が進み、これに加え一部耐震性に難があることから、旧県立北上病院跡地に新病院を建設することとし、令和2年度に開院を目指して工事を進めているところです。当病院は、長年にわたり当市の中核病院として、県立中部病院とともに急性期医療を担うほか、当市にとっては回復期医療を担う唯一の病院であり、市民にとって欠くことのできないものとなっています。</p> <p>また、「地域周産期母子医療センター」がない医療圏の胆江地区の金ヶ崎町や奥州市からも周産期医療の外来や入院患者が来院しており、2つの医療圏にまたがる広域性のある重要な医療機関となっています。</p> <p>当市としては、地域医療を支えるため、この新病院建設を、全面的に支援することとしており、その存在意義や広域性を考えた場合に、県と一体となった支援が必要と考えます。</p> <p>[要 望] (2) 信号機の新設</p> <p>新病院開院後、周辺道路における渋滞発生が予想されることから、北上市九年橋三丁目地内、市道上川原常盤台線と市道川原町南田線の丁字路交差点への信号機の新設に向けて特段の配慮を要望します。</p>	<p>開院後は、周辺道路において通院等による車両、歩行者の増加が予想されますが、今後、交通流量の変化、交通渋滞及び交通事故の発生状況などについて継続して注視することにし、適切な時点で住民の方の意見も参考としながら信号機設置の判断を行うことにします。(C)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C : 1</p>
<p>18 周産期医療体制の充実について</p> <p>岩手中部医療圏における妊産褥婦及び新生児を対象とした周産期医療については、県立中部病院及び北上済生会病院が地域周産期母子医療センターとして、医療を提供していますが、産婦人科・小児科の医師は不足しており、医師確保に取り組む必要があります。</p> <p>また、当市においては、安心して子どもを産み・育てられるまちづくりを推進しており、周産期医療の充実に向けて、医療機関との緊密な連携が必要であると考えております。</p> <p>[要 望] 地域周産期母子医療センター機能を担う県立中部病院の産婦人科・小児科の医師数の維持・増加を要望します</p>	<p>県立中部病院の産婦人科及び小児科については、常勤医師を産婦人科6名、小児科4名をそれぞれ配置し、地域周産期母子医療センターとしての役割を担っているところです。</p> <p>産婦人科及び小児科の常勤医師については、派遣元である大学において医師の絶対数が不足しており、大変厳しい状況となっていますが、今後とも、関係大学への派遣要請のほか、即戦力となる医師の招聘、奨学金養成医師の計画的な配置など、医師確保対策の推進を図りながら常勤医師の確保に取り組んでいきます。(B)</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B : 1</p>

北上市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>19 有害鳥獣の捕獲及び駆除の強化について ここ数年、当市ではニホンジカをはじめ、イノシシ、クマによる農作物等の被害が発生しており、その都度、北上市鳥獣被害対策実施隊（隊員71名）に出動を要請し、捕獲や駆除を行うほか、県及び市の事業による電気柵を設置し対策を行っていますが、被害は増加傾向にあります。</p> <p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ（主に東部）ーリンゴの若年木の食害 ・イノシシ（生息範囲及び活動範囲が拡大）ー水田の畦畔の掘り起しや踏み倒し、水田をヌタ場にする事による米の品質低下等 ・ツキノワグマ（市内全域）ー水稻や飼料作物の食害、家畜被害（養鶏） <p>また、イノシシについては、岐阜県や愛知県などで発生している豚コレラの発生源とされており、当市でも感染が懸念されます。</p> <p>[要 望]</p> <p>有害鳥獣による農作物等の被害が増加しているとともに、全体的に拡大していることから、県における捕獲及び駆除の強化を要望します。</p>	<p>県では、野生鳥獣の個体数管理等のため、狩猟期間の延長に加え、環境省の交付金事業である指定管理鳥獣捕獲等事業を活用したニホンジカやイノシシの全県での捕獲、ツキノワグマについて事前に設定した捕獲上限の範囲内で許可事務を簡素化する特例許可の実施などを行っています。</p> <p>また、農作物被害を防止するため、市町村で策定している鳥獣被害防止計画を踏まえながら、国事業「鳥獣被害防止総合対策交付金」を活用し、有害捕獲や電気柵の設置、地域ぐるみの被害防止活動などへの支援を行っているほか、このような取組を効果的に進めるため、全県対象の「岩手県鳥獣被害対策連絡会」、広域振興局単位の「県南地域野生鳥獣被害防止対策連絡会」を設置して、県と市町村の鳥獣被害対策の情報共有や、各地域の課題の解決に取り組んでおり、今後も継続して取り組んでいきます。</p> <p>さらに県南広域振興局としても、地域経営推進費を活用して、北上市との連携によるツキノワグマの総合的な防除対策の検証事業や、新たな狩猟免許取得者を確保するための啓発事業等を行うこととしています。</p> <p>なお、令和元年6月に国に対し、ニホンジカをはじめとする有害鳥獣の個体数管理や被害防止対策の強化について、国における支援の継続・拡充を図るよう要望したところであり、今後も様々な機会を捉えて要望していきます。（B）</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部、農政部</p>	